

白井市文化センターのあり方検討に関する提言書  
(案)

令和5年 月

白井市文化センターのあり方検討委員会



令和5年 月 日

白井市教育委員会  
教育長 井上 功 様

白井市文化センターのあり方検討委員会  
委員長 小川 真実

### 白井市文化センターのあり方検討について（提言）

白井市文化センター（以下「文化センター」という。）は、文化会館、図書館、郷土資料館及びプラネタリウム館の4館からなる複合施設で、平成6（1994）年の開館以来、これまで市の文化芸術活動や生涯学習活動の拠点として大きな役割を担ってきました。しかし、開館から28年が経過したことで、機器や設備の老朽化が進行して大規模改修が必要な時期を迎えています。

白井市文化センターのあり方検討委員会（以下「検討委員会」という。）は、文化センターの今後のあり方に関して、社会情勢の変化や市民ニーズ等を踏まえて、現状にとらわれずにゼロベースで検討するため、令和3（2021）年1月28日に第1回会議を開催しました。

全9回の検討委員会では、検討における前提条件として、近隣市町における文化施設の設置・稼働状況、市の財政状況・人口推計についての状況を確認するとともに、各種市民アンケート・関連団体ヒアリング・市民ワークショップ及び現地見学会結果の報告を受けました。

その後、施設機能を維持した大規模改修を行うための工事費用に関して確認・検討を行いました。

以上を踏まえて、各委員からの意見聴取を行いつつ議論を進めてきました。その内容を基に、次のとおり提言いたします。

## 1 文化センターのあり方について

白井市は、昭和 54 (1979) 年の千葉ニュータウンの街びらきを契機に、小・中学校をはじめとした公共施設を重点的に整備してきたことから、現在はこれらの公共施設が一斉に更新時期を迎えています。

このような中、市の財政状況は、高齢化による社会保障費の増加に伴う歳出の増加とともに、人口減少などにより、歳入の根幹をなす税収の大幅な増加は見込めない状況で、公共施設の老朽化対策に多くの財源を振り分けることが難しくなっています。

本検討委員会のなかでは、文化センターの現行機能を施設の耐用年数まで維持する場合に必要な大規模改修費として、38.8億円が示されましたが、先の白井市の状況を踏まえると、将来世代に過大な負担を残すことが懸念されます。

以上の状況をふまえ、文化センターは大規模改修を実施することで、機能維持を図るとともに、一部機能については廃止・縮小とすることで、可能な限り財政負担を軽減する必要があります。

一方で、文化センターは白井市の公共施設として、他の施設にはない文化芸術や社会教育施設の中核としての役割を担っています。大ホールでの発表会や、プラネタリウムでの課外学習活動など、子どもたちの発表や学習の場として、施設機能を維持していきたいという意見もありました。

また、廃止や縮小となる施設機能に関しては、周辺自治体との共同による公共施設の広域連携を検討する、市内の他公共施設の機能を文化センター内に移転させるなど、他の公共施設の状況を勘案し、市全体の公共施設の最適化という視点での検討も望まれます。

将来的な運営に掛かる費用に関しては、施設内に収益機能を導入することや、民間活力の導入、施設利用料増収のための減免制度の見直しなどを検討することで、経費の削減を図ることも望まれます。

さらに、機能の廃止や縮小によって得られる事業費を他の事業で活用できることも念頭に置くことが必要です。

現在、物価高騰が続くなど、益々将来を見通すことが困難となっています。市においても社会情勢や財政状況の変化に対応し、将来世代に過大な負担を残さないよう更なる事業費の縮減を図るなど、市の財政力の範囲内で事業を進めることが必要です。

## 2 各施設の方針に関して

### ○全館

空調・給排水・電気設備等については、開館当初から機器の本体更新がほとんど行われていない状況で、近年は不具合も多くなっています。また、施設の安全性確保のためには、大ホールの特定天井、バリアフリー、エレベーターなど既存不適格となっている事項等の改善が必要です。

施設の継続利用をするためには、来館者の安全性の確保を最優先とし、限られた予算のなかで優先順位を設定し、適切な改修内容を検討することが望ましいと考えます。

#### 基本的な考え

- ・文化センターは、施設全体としては存続すべきである。
- ・市の財政状況を十分に踏まえたうえで、改修の内容を検討すべきである。
- ・既存不適格部分の改修を適切に行うことが妥当と思われる。

### ○大ホール

市民の発表の場や優れた文化芸術の場として利用されている、802席の段床形式のホール施設です。舞台設備全般の更新が必要であるほか、来館者の安全性確保のため客席上部の特定天井の改修が必要であることが、施設機能維持を行う上での課題となっています。

現行の機能を維持するためには多額の改修費用が掛かること、またホール施設で発表するという体験の重要性を鑑み、学校やサークル等での発表利用を主目的とするなど設備のグレードを抑えた改修内容とすることも考えられます。現状の利用状況を勘案しながら、適切な設備改修とすることが重要だと考えます。また、既存不適格となっている特定天井改修に関しては、準構造化のほか、ネット改修などの改修方法を併せて検討することで、費用を低減させる検討も進める必要があると考えます。

一方で、再整備に掛かる費用の大幅な低減が見込めることから、大ホールは廃止も検討すべきという意見も挙がっています。その場合には大ホール利用者の発表の場を、今後どのように確保するのか検討する必要があります。

#### 基本的な考え

- ・大ホールは存続すべきである。
- ・規模(座席数)は維持し、機能(舞台機構、舞台照明、舞台音響、映像設備)は縮小すべきである。
- ・利用者、来館者に対する安全性の確保を前提とした改修内容とすべきである。

## ○中ホール

中ホールは、市民活動で利用しやすい300 席規模の平土間型ホール施設です。利用状況を見ると、演奏会や講演会、展示会など、市民の発表・展示の中心の場として幅広く利用されています。

大ホール同様に舞台設備全般の劣化が見られるほか、遮音性能が低いことから図書館やプラネタリウム館などへの音漏れが発生していることも施設利用上の課題となっています。

また、中ホール機能を廃止し内装改修を行うことで、市内の他公共施設機能を移転し、市全体の公共施設の集約化を図るといった意見も挙げられました。

### 基本的な考え

- ・中ホールは廃止とすべきである。
- ・用途の変更、収益施設の導入及び他公共施設機能の導入などを検討し、スペースを有効活用すべきである。

## ○図書館

蔵書数は人口規模に対して非常に多い傾向にあり、現施設は充実した図書館機能を有していると言えます。また、市内には書店がないため、市民が本に気軽に触れる場としての役割も担っています。

しかし、蔵書の更新を頻繁に行えないこと、セキュリティシステムの導入ができていないことなどが運営上の課題となっています。

現状の蔵書数を維持するという意見のほか、機能向上に関する意見としては、電子書籍の導入、多様な来館者や読書形態に応じた読書スペースの整備、ワーキングスペースや学習スペースなど来館者が自由に過ごすことができる場所を確保したいなどの意見が挙がりました。

一方で、蔵書や開架部分の面積を縮小し、市の規模に見合った施設規模に縮小するという意見も挙がりました。

また、施設規模の縮小によって得られるスペースに他の公共施設を移転させ、更なる施設の複合化を推進することにより、市の公共施設の総量を削減すべきとの意見がありました。

### 基本的な考え

- ・図書館は存続すべきである。
- ・規模(蔵書数・面積)は縮小し、社会変化に合わせた利用形態や他の公共施設の移転など、新たな機能を導入すべきである。

## ○郷土資料館

市の郷土資料の収集・展示を行う施設です。展示ケース等の経年劣化のほか、収蔵スペースが不足していることが課題となっています。

市ならではの施設であることから今後も維持していく必要があるという意見が挙げられました。

一方で、市内の別の場所に移転させることでスペース不足の解消を図る、近隣市町とともに広域連携を行うことで、文化センター内に別の施設機能を移転するという意見も挙げられました。

### 基本的な考え

- ・郷土資料館は存続すべきである。
- ・展示室の規模は縮小し、余剰面積を収蔵スペースに転用すべきである。
- ・さらなる収蔵場所の確保については、文化センターの内外に収蔵機能を移設させる、デジタルアーカイブ化を行う、近隣自治体との広域連携等の方策を検討すべきである。

## ○プラネタリウム館

市内の幼稚園や保育園、小・中学生の学習利用が一定数あるほか、オリジナルのプログラムを作成している施設です。

一方で、施設の採算性が低いことが運営上の課題となっています。

学習利用においては重要な役割を担っているため、既成概念にとらわれない新たな機能や事業を導入することで利用対象を拡充し、収益性を高めることで施設機能を維持すべきという意見や、周辺自治体にもプラネタリウム機能があることや、新たな技術を取り入れた学習方法の採用も可能なことなどから廃止すべきという意見も挙げられました。

### 意見集約に至らなかったことから両論併記とする。

### 基本的な考え

- ・プラネタリウム館は存続すべきである。
- ・(理由)白井市のシンボリック施設であるとの意見もあったこと、小・中学校や幼稚園等での学習利用に多く利用されていること。

### 基本的な考え

- ・プラネタリウム館は廃止すべきである。
- ・(理由)近隣にプラネタリウム館があること、学習利用はWEBサービス等で代替可能であること、施設の採算性がないこと、利用頻度が低いこと。

## ○エントランス等共用スペース

大ホール棟、図書館棟の2棟をつなぐエントランスは、中庭に面した開放的な空間で、来館者の憩いの場所となっています。

また、文化センターの主要な機能を補完する用途として、コワーキングスペースや自習スペースなどへ利活用するという意見がありました。

なお、大ホールのエントランスから直接トイレに入れないことによって、開演までの待ち時間にトイレを使えないといった問題も提起されています。

さらに、喫茶スペースでは、自動販売機を設置し、読書をしながら飲食が可能なスペースにできると良いという意見もありました。

### 基本的な考え

- ・エントランスホールは、ミニコンサートやワークショップなどのイベント会場として活用すべきである。
- ・現在空きスペースとなっている喫茶スペースを、コワーキングスペースや飲食スペース等に活用すべきである。
- ・外部空間(前庭・中庭)との一体的な利用を検討すべきである。

## 3 施設の整備方針に関して

本検討委員会のなかでは、文化センターの各施設・機能のあり方に関して、市の上位計画や財政状況、施設の利用状況・劣化状況等の検討を通して、現状維持や縮小から廃止まで様々な意見が挙がりました。各施設については、本検討委員会での議論内容を十分に踏まえつつ、今後、市が新しい施設の方針を示し、それに沿った再整備が行われることが望まれます。



## 白井市文化センターのあり方検討委員会の経過

○令和3年1月28日

### 第1回文化センターのあり方検討委員会

- (1) 委嘱状及び任命状交付、委員紹介、事務局等紹介
- (2) 検討委員会の目的と役割について
- (3) 委員長・副委員長選出
- (4) 白井市文化センターのあり方の検討に関するこれまでの経緯（報告）
- (5) 今後のスケジュールについて

○令和3年3月16日

### 第2回文化センターのあり方検討委員会

- (1) 市の財政推計、財政健全化への取組みについて
- (2) 市の上位計画等について
- (3) 文化センターの建設計画について
- (4) 文化センターの運営経費について
- (5) 現在の市民の年齢構成及び将来予測等について
- (6) 近隣自治体及び同規模自治体における文化施設等の設置・運営状況について
- (7) 今後の検討委員会の進め方について
- (8) 市民アンケート、利用団体ヒアリング等調査について

○令和3年6月29日

### 第3回文化センターのあり方検討委員会

- (1) 近隣施設（文化ホール等）の調査結果について
- (2) 各館の基礎調査結果（利用状況の整理等）について
- (3) 市民アンケートの結果について（中間報告）
- (4) 今後の検討委員会の進め方について

○令和3年11月5日

### 第4回文化センターのあり方検討委員会

- (1) 各種アンケート・ヒアリングの結果について（報告事項）
- (2) 公募管理者制度（Park-PFI）等について（報告事項）
- (3) 白井市の財政状況について（委員長より報告）
- (4) 改修方法及び改修費用の提示と今後のあり方について
- (5) 検討委員会と市民参加の役割について

○令和4年3月 18 日

**第5回文化センターのあり方検討委員会**

- (1) 文化センターの運営経費について（訂正）
- (2) 白井市公共施設個別施設計画について
- (3) 市民ワークショップ・施設見学会の実施結果について
- (4) 施設別改修経費・ライフサイクルコストについて
- (5) 今後のスケジュールについて
- (6) 今後の文化センターのあり方の検討について

○令和4年5月 31 日

**第6回文化センターのあり方検討委員会**

- (1) 機能ごとの概算金額に関して（修正）
- (2) 検討委員会及び検討委員会終了後のスケジュールについて
- (3) 文化施設等の配置及び市制の要件に関する法令について
- (4) 若い世代に向けた市の取組について
- (5) 今後の文化センターのあり方に関する意見交換

○令和4年8月 16 日

**第7回文化センターのあり方検討委員会**

- (1) 文化センター各館の改修方法と利用可能形態について
- (2) 第6回検討委員会が出された意見等について
- (3) プラネタリウム館の運営経費見込額について
- (4) 財政推計の見込額と決算額、出生率・出生数について
- (5) 今後の文化センターのあり方に関する意見交換

○令和4年 10 月 25 日

**第8回文化センターのあり方検討委員会**

- (1) 提言書（案）の検討について

○令和5年1月 24 日

**第9回文化センターのあり方検討委員会**

- (1) 提言書（案）の検討について

白井市文化センターのあり方検討委員会 委員名簿

氏名	区分	所属等	任期
小川 真実 (委員長)	学識経験を有する者	千葉大学大学院社会科学研究院 教授	令和2・3・4年度
三浦 永司 (副委員長)	生涯学習推進委員会の委員	元教育行政職員 (生涯学習ボランティア)	令和2・3・4年度
久富 清敏	学識経験を有する者	(一社) 千葉県建築士会副会長	令和2・3・4年度
榛沢 宏一	教育機関の職員	清水口小学校長	令和2・3・4年度
島田 伸	教育機関の職員	白井中学校長	令和2・3年度
土屋 博之	教育機関の職員	白井中学校長	令和4年度
比屋根 健	教育機関の職員	英幼稚園長	令和2・3・4年度
山口 一郎	市民	公募(一般)	令和2・3・4年度
関口 文子	市民	公募(一般)	令和2・3・4年度
山本 美智子	市民	公募(一般)	令和2・3・4年度
五十嵐 真人	市民	公募(登録)	令和2・3・4年度
中島 恵	市民	公募(登録)	令和2・3・4年度
高山 博亘	市の職員	財政課長	令和2年度
板橋 章	市の職員	財政課長	令和3・4年度
鈴木 隆宗	市の職員	公共施設マネジメント課長	令和2・3・4年度
宇佐美 喜久	市の職員	建築宅地課長	令和2年度
藤川 敦史	市の職員	建築宅地課長	令和3・4年度

## 資料編

- ・ 白井市文化センター概算算定一覧（竹案）：機能ごとの金額提示案
- ・ 第6回7回委員会意見まとめ